

— ICT活用広報誌 — ICT · AT · AAC · DX · AI · etc



GiGAびより



Web ページ



「分かる」って楽しい! 「できる」ってうれしい!

■ I 令和8年度 ICTを活用した教育における取組目標

県立学校では、1人1台端末やデジタル教科書等を積極的に活用して、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善に取り組み、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を目指しています。特別支援学校では、ICTを活用した取組目標の1つを「1人1台端末を活用した子ども主体の学びの実現に向けた取組」の観点から設定しています。本校では、以下の2つを目標として取り組んでいます。

取組目標 I 【ICTを用いた「分かる」授業づくり】

特別支援教育では、ICTを活用するときに「分かる」「できる」の2つの視点から整理することで、活用の目的や方法を明らかにすることができます。今年度は、特に「分かる」授業をICTによって実現することを重点とし、児童生徒一人一人の認知特性や学習上の困難さに応じた教材提示や情報保障の充実を図ります。

具体的には、視覚的な提示の工夫や動画・音声教材の活用、拡大表示や読み上げ機能の利用などを通して、学習内容を理解しやすい環境づくりを進めます。また、授業実践を通して効果的な活用事例を蓄積し、教職員間で共有することで、学校全体のよりよい授業づくりにつなげていきます。

取組目標 II 【特別支援教育教員アシスタントとしての生成AIの活用】

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実の実現のためには、「教職員が多様な視点から子どもたちと向き合うことができる環境を実現するために、事務作業の見直し等による教職員の働き方改革を推進する」ことが必要とされています。そこで、生成AIを特別支援教育教員のアシスタントとして位置付け、教材作成や学習活動のアイデア出しや、個別の指導計画作成時の視点整理のためのツールの選択肢として活用します。これにより、教員が児童生徒と直接関わる時間を確保するとともに、多様な支援方法を検討できる環境づくりを目指します。生成AIは業務や教材づくりを支援する便利なツールである一方、事実と異なる内容が生成される場合もあります。そのため、活用にあたっては、生成された内容をそのまま使用するのではなく、教員自身が内容を確認しながら活用することを大切にします。今年度は、まず用途や役割を整理したGPTs(カスタムGPT)を活用しながら、生成AIの特徴や効果的な使い方に慣れていくことを目指します。そして、自分の目的に応じたプロンプトの工夫や改善ができるよう、段階的に活用の幅を広げていきます。

※GPTs(カスタムGPT)の例※

実態把握サポート「アセスさん」



実態把握サポート「アセスさん」

作成者: Ommy-chan

文部科学省「障害のある子供の教育支援の手引」や学習指導要領解説をもとに、「実態把握の視点」を提案します。

実態把握をサポートしてほしい



+ 質問してみましょう

合理的配慮サポート「ハリオアイ」



合理的配慮サポート「ハリオアイ」

作成者: Ommy-chan

気になる変化や配慮が必要と思われることについて、学校における合理的配慮を提案します★

学校生活で気になることについて、合理的配慮を考えたい。

行動や状況に対して、どのような合理的配慮が考えられるか知り...

肢体不自由のある児童生徒への合理的配慮を考えたい。

医療的ケアや健康上の配慮が必要な児童



+ 質問してみましょう

※予告なく公開を終了する場合があります。

★本広報誌では、佐賀県教育センター「論文表記上の参考資料」に則り、単語の頭文字を組み合わせて意味をなすもの（ICT AI 等）は全角で表記しています。

■2 センターの機能としての外部研修

特別支援学校のセンター的機能の一環として、地域の学校等の研修協力を行っています。

- ・令和8年度佐賀大学大学院学校教育学研究科授業科目「教科等におけるICT利活用の基礎と課題」「特別支援教育におけるICT活用の理論と実践」
- ⇒現職教員・スタマスの方々に、特別支援教育におけるICT活用の視点を中心にお話をしました。



<感想等(原文のまま抜粋)>

- ・子どもたちに何を伝えたくて、そのためにどのような方法で、何をどれだけ使って伝えるか。今回の講話では実演も交えた説明で、自分自身のこれまでの授業や資料の提示の仕方について振り返ることができた。
- ・その子のできないことよりもできることを重視することの大切さも学んだ。「この子はこれが苦手だから代わりにしてあげなきゃ」など、その子がしなくてもいいような環境を作ってしまうがちであったが、そうではなく、今日の前の子どもは何ができるのか、苦手なことをするにはどのような補助が必要であるのかを出来ることの視点から考えることが大切であると学んだ。

- ・令和8年度佐賀県特別支援教育研究会 第1回研修会 『『分かる』『できる』ICT活用』

⇒県内の特別支援学校、特別支援学級等の方々に、「分かる」「できる」ICT活用について、事例を交えてお話をしました。



<感想等(原文のまま抜粋)>

- ・ICT活用があまり出来ていないので、こんなに便利なものがあるのかと勉強になりました。教材のデジタル化が教育の情報化ではないと仰った事にハッとしました。ありがとうございました。
- ・「つい子ども側に問題があると思ってしまう」というお言葉が心に残りました。ICTを「いつもちょっと楽しく学べる」「いつも近くで助けになる」という活用をしていきたいと思いました。
- ・そういう視点があったか！方法があったんだ！と、同じ教材を使っても違う視点での話も聞くことができ、新しい発見ばかりでした。

■3 今年もやります！夏のGIGAフェス（ICT活用公開研修）

日時 令和8年8月4日（火）9:00～16:40

- 内容
- ① 「分かる」と「できる」のミカタ —子どもと教師を支えるICT活用—
 - ② 授業支援グループワーク —「分かる」を考える—
 - ③ 分かるコミュニケーション支援 —紙製VOCAづくりをとおして—
 - ④ 特別支援教育と生成AI —生成AIを教師のミカタに—

※詳細や申込方法については、後発の案内をお待ちください。
※内容は変更になる場合があります。

特別支援教育向けアプリ「DropTap」の**Chromebook対応・視線入力対応版**の実現を目指すクラウドファンディングが実施されています。Chromebookを使用している多くの子どもたちの、コミュニケーション支援につながる可能性のあるプロジェクトです。なお、このクラウドファンディングは目標達成時のみ成立する方式で、目標未達の場合は支援金は決済されません。興味・関心のある方は右記QRコードからサイトをご覧ください。



※支援を強制するものではありません。

特別支援教育でのICT活用に係るご相談、研修依頼にも応じます

お気軽にお問い合わせください。

※自治体で採択されている端末や管理方法によっては、ご希望に添えない場合があります。

【電話】 0942-94-3575

【メール】 nakabarutokubetsushien@education.saga.jp

【窓口】 地域支援部 ※お問い合わせの際に「ICT活用に係る相談」とお伝えください。

